

科目コード	N210
授業科目名	臨床薬理学
授業科目名（英文）	Clinical Pharmacology
講義室等	1102
学科	看護学科
対象学年	2年
開講学期	前学期
必修・選択の別	必修
単位数	1
時間数	30
該当ディプロマ	◎看DP-2
該当コンピテンス	◎看CP-3、○看CP-4、△看CP-5
学科	
対象学年	
開講学期	
必修・選択の別	
単位数	
時間数	
該当ディプロマ	
該当コンピテンス	
担当教員	小林 英幸
授業の概要	薬物の薬理作用、作用機序、特徴、正しい与薬法を理解する。 与薬後の注意、副作用とその対策、薬品の取り扱い留意点を理解する。 各種薬物がどのような症状の改善や疾患の治療に応用できるのかを理解し、説明できるようになる。
授業の到達目標 （学修効果）	1. 各種薬物について、生体の作用点を説明できる。 2. 薬物の薬理作用及びその作用機序を説明できる。 3. 薬物の臨床応用を説明できる。 4. 薬物の使用にともなう副作用の症状とその対策について説明できる。
予習復習の所要時間	講義時間30時間(2時間×1コマ×15回)+予習・復習15時間
成績評価方法	筆記試験（100％）で、60点以上を合格とする。
教科書	吉岡 充弘他「薬理学 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進〔3〕」第15版 2022年（医学書院）
参考書	田中千賀子他「NEW 薬理学」改訂第7版 2017年（南江堂）
その他	

回	年月日	曜日	時限	授業項目	授業の形態	講師	非常勤	備考
1	R7.4.7	月	I	薬理学とは／薬物の作用機序 予習 教科書1章を読んでおくこと 復習 講義内容を復習すること	講義	小林 英幸	2	
2	R7.4.7	月	II	薬物の体内動態／薬物相互作用 予習 教科書2章を読んでおくこと 復習 講義内容を復習すること	講義	小林 英幸	2	
3	R7.4.14	月	II	薬物有害反応/薬と法律 予習 教科書2章を読んでおくこと 復習 講義内容を復習すること	講義	小林 英幸	2	
4	R7.4.21	月	II	抗感染症薬 予習 教科書3章を読んでおくこと 復習 講義内容を復習すること	講義	小林 英幸	2	
5	R7.5.12	月	II	抗がん薬 予習 教科書4章を読んでおくこと 復習 講義内容を復習すること	講義	小林 英幸	2	
6	R7.5.19	月	II	炎症・免疫系作用薬 予習 教科書5章と6章を読んでおくこと 復習 講義内容を復習すること	講義	小林 英幸	2	
7	R7.5.26	月	II	末梢神経系作用薬 (1) 予習 教科書7章を読んでおくこと 復習 講義内容を復習すること	講義	小林 英幸	2	
8	R7.6.2	月	II	末梢神経系作用薬 (2) 予習 教科書7章を読んでおくこと 復習 講義内容を復習すること	講義	小林 英幸	2	
9	R7.6.9	月	II	中枢神経系作用薬 (1) 予習 教科書8章を読んでおくこと 復習 講義内容を復習すること	講義	小林 英幸	2	
10	R7.6.16	月	II	中枢神経系作用薬 (2) 予習 教科書8章を読んでおくこと 復習 講義内容を復習すること	講義	小林 英幸	2	
11	R7.6.23	月	II	循環器系作用薬 (1) 予習 教科書9章を読んでおくこと 復習 講義内容を復習すること	講義	小林 英幸	2	
12	R7.6.30	月	II	循環器系作用薬 (2) 予習 教科書9章を読んでおくこと 復習 講義内容を復習すること	講義	小林 英幸	2	
13	R7.7.7	月	II	呼吸器／消化器／生殖器系作用薬 予習 教科書10章を読んでおくこと 復習 講義内容を復習すること	講義	小林 英幸	2	
14	R7.7.14	月	II	内分泌・代謝系作用薬 予習 教科書11章を読んでおくこと 復習 講義内容を復習すること	講義	小林 英幸	2	
15	R7.7.28	月	II	薬物治療の実際 予習 教科書12章と13章を読んでおくこと 復習 講義内容を復習すること	講義	小林 英幸	2	